

# カトリック六甲教会 2008 教会報 12

創立 60 周年 記念 特別号

## 1939年、六甲に播かれた小さき一粒の種

鳥居 泰子

69年前、昭和13年、六甲伯母野山に創立者ライフ神父様、校長武宮隼人神父様、修道士の方々によって六甲中学校及び修道院が創立されました。修道院のお聖堂で日曜日毎にミサ聖祭、夕方には聖体降福式が行われ、参列者は学校関係者、生徒達の少人数で当時六甲中学の生徒であった弟達（2期生、5期生）と私、両親達も含まれておりました。ミサはラテン語でキリエイソン、クリステイソンで始まり、侍者は生徒達でした。ミサ後はお話したり、お菓子をいただいたり、小さなグループで楽しい集まりでした。ライフ神父様の個人指導による公教要理で個人的に勉強していただきました。また、夏休み休暇や日曜日等には井上しげ様（故原洋子様のお母上）の指導の下、若い十代の少女達によって神父様のお布団の洗濯や靴下の繕い等奉仕させて頂きました。何も出来ない私達のご指導は大変だった事と思います。

この頃は、住吉教会が親教会で、祝日には住吉教会までミサに行きました。当時、田口司教様は六甲に別の小教区を作る計画があったようで、昭和14年に当時空き家であった、六甲中学への坂の上り口、篠原北町1丁目の旧福島家で六甲教会が発足しました。主任司祭は、クラインゾルゲ神父様で、松澤様の小母様がお手伝いとしておられました。教会は、日本家屋に洋館がひっついてる普通の住宅で、二階の畳の二間の襖をはずし、床の間に祭壇を置き、その部屋の周りは縁側で取り囲まれ、香部屋として使われていた洋間に続いていました。次第に信者数が増し、建築家であった亡き父が、二階が落ちないかと心配していました。ここでは日曜日毎に信者同志の交友等、楽しい雰囲気でした。



福島家

ここは六甲学院との連絡場所としても使われていましたが、戦前、日本はドイツ国と友好関係があったので、ドイツ人の神父様が多かった関係で当局からは睨まれなかったようです。

昭和16年には、今の教会の南側、道路を隔てて通称「お化け屋敷」と言われていた故岡山大様のお宅へ教会は移りました。

今日、六甲教会は信者数も増え、ミサ数も増え、幼児を連れた信者が多く来られるのを見て、この子供さん達に引き継がれ、ますます六甲教会の発展を見る思いで、感謝でいっぱいです。



天主教六甲講義所（岡山家）

## 六甲教会の六十年を顧みて

ヨハネ 三好 榮之助

1936年に数名のイエズス会員が、関西に中学校を設置するために遣わされてきた。これがこの教会の発端である。曲折を経て1938年によく六甲中学校開校にこぎつけた。しかし、そのとき学校内には修道院はなく、イエズス会員は山麓に民家を借りて少数の生徒と共に寮生活をしていた。1939年に学校内に修道院建物が完成し、イエズス会員はそこに移ったが、山麓にも拠点が必要であったために、福島作市郎氏の住宅を借り、学校の教員を兼ねたクラインゾルグ師が常駐され、主日には近隣の信徒がミサに与った。これが最初の六甲教会であった。

学校が軌道に乗り、生徒や家族の信徒も増加し、更に広い場所が必要になり、登山口バス停を下った岡山大氏の古い洋館を借り「天主公教六甲講義所」と称して学校とは別にボルシュ師が常駐されるようになった。主日には六甲学院の生徒や近隣の信徒がミサに集まり、学校から司祭や神学生が来て、要理教室や聖書講座など小さな催しが盛んに行われた。この古い洋館をわれわれは「幽霊屋敷」と呼んでいた。この時代は誤れるナショナリズムの嵐が吹き荒れ、学校もこの教会も数々危機に見舞われたが、司祭たちや協力者（その大部分は善意の教外者）によって守り抜くことができた。学校も教会も存続し得たのは摂理というほかない。この時代に六甲中学校に学んだ生徒で第一期から第五期の卒業後六人もの司祭を排出したことは、武宮隼人師を中心としたイエズス会の教育が何であったかを如実に示している。この時代が真に六甲教会の基石である。



武宮隼人 神父

敗戦と共に嵐は収まり、進駐軍の政策も追い風となり、苦難にあって播き続けた種が一斉に花開いた。主任司祭となったブラウン師の猛烈な努力、イエズス会の豊富な人材により教勢が飛躍し、幽霊屋敷では主日には聖堂に入りきれない信徒が外、庭に立ってミサに与る事態となった。そこで新たに教会を建てることになって、ブンガルテン師がこんな所に教会を建ててどうするのかという批判を押し切って現在の教会の場所（それは畑の一部であった）を購入し、このときも多くの教外者の協力を得て農地に教会を建てるという困難を克服し、先ず司祭館（修道院）を建て、その1階の広間を聖堂に当て、一息ついた。しかしそれも束の間、間もなく大祝日には聖堂に入りきれない信徒が玄関でミサに与るといった事態になった。

そして遂に長年親しんだ本物の聖堂が建てられたのである。教勢の拡大は司牧のために小教区の設置が必要となり、近隣教会の猛烈な反対を克服し、当初の予定よりも管轄区域を大幅に縮小してようやく小教区を設置できた。更に煉獄の靈魂援助姉妹会が招かれ、教会に多大の貢献をされることになった。顧みると、このブラウン師が主任司祭であった時代に、今日の六甲教会が形作られ、今日の教会組織の原型がこの時期に造られた。特筆すべきは、この時期に六甲学院の卒業生や教会の女子青年会員の中から相次いで司祭の、あるいは修道生活の召命に応えた者があったこの時代が、この小教区の霊性も含めて最も活力のあった時代であった。



ブラウン神父と女子青年会員

今、我々は心置きなく信仰生活を享受できるのは、摂理を実現された先輩たちの遺産、賜物である。教会の更なる発展のために、先賢の残された業績を基石としてその上に新たな石を築き上げていかなければならない。我々はあまりにも豊かさに馴らされて、今、教会が現代の社会で何をしなければならぬかを忘れていないか。次の世代に何を残そうとしているのだろうか。

武宮隼人師が教え子に残した遺訓を思い起こす。「すべてのものは過ぎ去り、そして消えていく。その、過ぎ去り、消えていくものの奥に在る永遠なるもののことを静かに考えよう。」1940年の受洗以来、この六甲で、イエズス会の傍らでイエズス会に育てられた私の感慨である。

## 現御聖堂の建築に携わって

中河 富治

カトリック六甲教会の旧聖堂は、昭和 28 年 5 月に木造建築されました。当時は立派な御聖堂で、教会行事の時には正面玄関の入口でよく写真撮影をしていました。

しかし、平成元年、聖堂北側の木造部分にシロアリ及び腐朽菌の発生が観察されました。調査の結果、36 年を経過しているため、主要部材がその機能を果たせなくなっており、台風・地震等の時には危険な状態であることがわかりました。その対策として、〔1〕欠陥の補修、補強工事を実施する〔2〕御聖堂は建物全体を立て替えるとの提案を受け、早速評議会で建設することを決め、平成元年新聖堂建設委員会が発足しました。

建設委員会は、典礼と教会建設を学習すると共に、地区会での御意見やアンケート調査の分析を行い、新聖堂建設の理念作りに着手しました。第二バチカン公会議の精神に基づいて「開かれた教会、普遍的なコミュニケーションを提供する空間」を理念として、具体的には、最も大切なお祈りをする静かな聖堂と、地域社会の人々と交わり易い心を開いて話し合える場・イグナチオホール、小会議室等を設置することにしました。

また、六甲教会の地域・環境・敷地の特性を考え、旧神父館を含めて立て替える事にして、新聖堂は敷地の北側に建設する事を決定しました。但し鉄筋コンクリート造りの鐘楼は、旧聖堂を偲び教会のシンボルとして保存することにしました。

基本的な建設案を決めた時点で、アンケート・説明会での要望等を再整理し、イエズス会のご意見を聞いて、施設と容量をまとめるのに約 2 年を費やしました。イエズス会より推薦された I C D



建設設計事務所に基本設計を依頼して、平成 6 年 7 月 3 日、起工式が挙行されて新聖堂の建設工事が開始されました。

新聖堂は、工事中に阪神大震災にあいましたが、構造物全般に亀裂の発生もなく、主要部材の、耐震的な安全性が確認されました。建設工事は順調に当初の計画通りに進行し竣工されました。

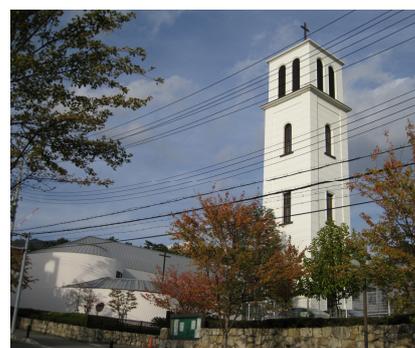
そうして平成 7 年 11 月 23 日、献堂・落成式が挙行されました。

思い返せば、当時の私は過去に二度の新設県立高校の建設の経験があり、学園紛争の大変な荒波も体験していました。少し落ち着いてきた時、マザー・テレサとの出会いがあり、大きな影響を受けました。これらのことが、後に与えられた教会建設への前準備だったように思えました。

当然、信徒の皆様方が建設に協力し、イエズス会の大きな助けを受け、結果的には神戸市も道路拡張での土地売買で、間接的な協力という、神の「はからい」のうちに総てがあり、「神は、私たちが助けて、教会をお建てになった」という実感でした。

これからは、この頂いた建物を、教会の存在目的のためにも、心を配り賢明に判断していかねばと思います。

「私が、あなた達を愛したように、互いに愛し合うこと、これが私の掟である」(ヨハネ 15-12) 主の御言葉を生きるために、互いに敬愛し祈りあっていきたいと願っています。



## 思 い 出

千原 武



カトリック六甲教会創立 60 周年おめでとうございます。半世紀を優に過ぎたのですね。

戦後、現在の土地に教会ができた時、上下二段に分かれており、上の段に司祭館のみができ上がり、下の段は今の信徒会館の場所にカマボコ兵舎のみでした。

聖フランシスコ・ザビエルの右手が日本を巡回したことを何人の方がご存知でしょうか。当時、司祭館の小さな御聖堂で信者が祭壇に膝まずき、一人一人にブラウン神父様が汗まみれになってお示し下さいました。と言うのも新聞報道でとても大勢の近隣の方々も来られたからです。小さな玄関では間に合わず、庭まで履物が並んでいたのを覚えております。

その後、昭和 28 年に旧聖堂が建ち、信徒会館もできました。

歴代の主任神父様は物の無かった時代に、教会の為、信徒の為、大変ご苦労されたのではないのでしょうか。ブラウン神父様は今で思えば小さな単車で小林の聖心まで行かれてました。石屋川の分岐点で故障した車を押しながら教会へ帰られるのと出会ったことがあります。オマリー神父様が新聖堂建設の時、「アメリカでは都市中心部の古い教会は信徒が減り、郊外の教会に信徒が増えるドーナツ現象が起きている。今は良いが何年か先にその様なことが六甲でも起きるかもしれない」と言われました。待てよ、神戸は横に長い都市だからドーナツにはならないと一瞬思いましたが、須磨教会のように北に移動（北須磨教会）したのも事実です。

最近、ザビエル動乱の宣教師の旅を読み直し、イエズス会の創設者の一人イグナチオの名前を頂きイグナチオホールと決められた気持ちも良く判りました。

私も歳をとると、欧州の教会のように何百年、何千年と神のご加護により信徒が切磋琢磨して、カトリック六甲教会を歴史ある教会として長年存続して欲しいと思います。

カマボコ兵舎で歌の練習



司祭館聖堂

司祭館の小さな御聖堂

### 編集員のつぶやき

60 周年を機会に、先輩方へ、教会のことをご寄稿頂きました。知らなかったこともあり、当時の方々の教会に対する思いを受け継ぐ意味でも、もっともっとお話しを伺いたいと思います。今後、通常の教会報にも掲載いたします。どうぞご投稿下さいませ。

なお、表記上、また紙面の都合で、事前にご連絡もせず広報部で原稿に手を加えさせて頂いていることをここに記し、ご了承下さいます様お願い申し上げます。

★♡★

カ	ト	リ	ッ	ク	六	甲	教	会						
〒657-0061	神	戸	市	灘	区	赤	松	町	3	-	1	-	2	1
電	話	0	7	8	-	8	5	1	-	2	8	4	6	
F	A	X	0	7	8	-	8	5	1	-	9	0	2	3
発行責任者	桜		井		彦		孝		神		父			
編	集	広			報						部			